

農業参入で地域づくり

(株)トウチユウ温泉津事業所

温泉津町福光にある「株式会社トウチユウ温泉津事業所」(嘉戸重正所長)は、同町にある温泉津鉱山で、珪砂を採掘しています。

珪砂は、ガラス原料用や自動車エンジン等の鋳物材料用に使われるなど、その品質は、全国トップクラスといわれています。

この会社が、平成22年に農業参入による特産品(アムスメロン栽培)の生産に乗り出しました。



▶約1万㎡の工場跡地には、6棟のビニールハウスが並びます。今年産の栽培は、収穫期の夏に向かって、今から勝負になります。(写真後方は、建設中の仁摩温泉津道路)

工場内の跡地利用 何ができる

(株)トウチユウ温泉津事業所は、昭和39年に温泉津町福光に開設されました。

最盛期は、月産4万トンの採掘量がありましたが、近年、採掘量が減少し平成14年に工場を休止、平成19年に水洗工場を廃止し、その跡地利用について、地元貢献を含め、検討してきました。

このなかで、市町合併前の旧温泉津町が昭和56年から農産物振興で取り組んで

◀ハウスの基礎は土ではなく、コンクリートの上にブロックを積み上げています。土の姿がどこにも見当たりません



いるアムスメロンの栽培に着眼、約1万㎡ある跡地利用は、パイプハウスの建設に向けて、計画が進みま

した。工場跡地は、コンクリート舗装で覆われており、農地(耕作地)への再生には莫大な資金と時間がかかることから検討を重ねまし

た。また、当社では、農業参入が初めての計画であり、新規事業としての実現に向けて、島根県をはじめ大田市、JA石見銀山による支援が始まりました。

生産手段は 新栽培手法で

パイプハウスの建設は、現状のコンクリート舗装のままでも農業ができる、「少量培地耕(通称トロ箱栽培)」の提案がJAからあり、導入に向けた検討が進みました。

トロ箱栽培とは、島根県農業技術センターで開発した「簡易型養液栽培」で、魚を入れる発砲スチロール(トロ箱)にヤシ殻を詰め、薄い液体肥料を流して作物を栽培します。材料も安く、簡単に入手でき、安定した栽培が可能な新しい農業技術です。

この手法で、現状のままの跡地利用が可能となりました。

試行錯誤 栽培は苦難の道

平成21年9月、試行錯誤の末、ハウス第1号(10m×40m)が完成しました。平成22年には、2号(10m

×50m)を導入、平成23年には4棟が完成し、現在、敷地内には6棟(約30a)のハウスが建っています。トロ箱栽培という、この栽培方法は、県内でも益田市と大田市だけです。

新技術での栽培も、農業はやってみたいと結果は出ません。実情は、大変なものでした。なかでも、平成22年産のアムスメロンは失敗に終わりました。

原因は、経験不足による水分と肥料の与え方に問題があったようです。収穫間際になって、果実が裂ける被害が続出、半分のメロンだけしか出荷ができなかったのです。



▲縦横85×27センチのトロ箱が並べられており、箱の中は養液が流れているだけで、とても衛生的な環境で、すくすく育っているメロン

農業参入は 地域への貢献策

「(株)トウチユウの農業参入は、単に工場の跡地利用ということだけではありません。」と、嘉戸所長。昭和39年に温泉津町での創業以来48年になる温泉津事業所は、地域への貢献として何が出来るかを模索していました。

森田勉司取締役社長の一貫した地域への貢献策は、この地での農業参入となりました。

アムスメロンの栽培は、新たな品目を栽培するのではなく、既に産地化とブランド化を形成していた「ゆのつメロン」の栽培者と協



▲55箱のトロ箱の列が8列に並び大きなハウス内は、収穫期を2回に分けるため、まだメロンの花が咲いていました

メロンのご注文は…

島根県一の品質のメロンをどうぞ



進物用(4玉入り) 3,675円
優品(5~6玉入り) 2,940円

※送料が別途必要です。

いずれも5kg入りです。

J A石見銀山 温泉津支所

〒699-2511

大田市温泉津町小浜イ42-2

☎ 0855-65-2235

FAX 0855-65-2011

力すること、地域貢献ができるのではとの思いからでした。

ここでの大きな課題として、施設園芸組合の担い手不足、高齢化があり、この産地を守る取組みをも視野に入れての考えでした。

選任の指導員

J Aから採用

農業参入をするうえで、重要なのは生産指導体制でした。

当時は、J Aのバックアップで営農指導員が付きつきりで、ハウスの設置から営農指導をやってきましたが、専属での指導が困難になった事情から、会社は、その指導員を採用する

こととなりました。

新たな農業事業部を作り、部長となった家迫和巳さんは、25年間勤めたJ A

を退職、トウチユウの新たな夢の実現に向けて、日々奮闘の毎日です

教訓を糧に

収穫率95%達成

平成22年産の教訓を糧に、データを蓄積し研究を重ねた家迫部長は、会社オリジナルのメロン栽培マニュアルを作成し、平成23年産はなんと95%以上の収穫率を上げました。

地域での収穫率の平均が約75%台ですから、驚きの収穫率であったとされます。今年24年産の生産に取り

組んでいる忙しい最中、「僅か30aの面積です。栽培面積が増えれば労働力の確保

が必要になり、地域も活性化します。」と熱く語っていました。

お話を伺いました



トロ箱栽培が地域を救う会社と一体となって地域を盛り上げます

「トウチユウの嘉戸所長から農業参入のお話があったときは、正直、嬉しかったです。

これまで、温泉津町でアムスメロンや西条柿の産地づくりを取り組んでいましたが、特に心配してきたのは、農家の高齢化と担い手不足でした。

この町の施設園芸組合は、最盛期の平成元年は27戸あり

ましたが、今では10戸足らず、平均年齢も60歳です。

担い手対策は行っていないですが、高齢化と農家減少の勢い

には歯止めがかかりません。

そこでお話の中に、『地域貢献』という言葉が出てきた

とき決心しました。

この栽培方法は、色々な事情があるなかでの手段でした

(株)トウチユウ 温泉津事業所

大田市温泉津町福光

ハの434番地

☎ 0855-65-2335

農業担当部長

家迫和巳さん(47)

が、凄いいメリットがあるので。土耕だと畝立作業があり機械を使わなくてはなりません。トウ箱栽培は農業機械を使わなくてもできるんです。それに土を使わないから病気にも強く、春秋2回収穫ができますし、ハウス内は土足厳禁で、消毒してから入るので衛生的なんです。

今後は、もっともつと生産拡大したいと思います。そうすれば人も必要になります。会社も地域も農業に興味のある人材が必要になります。」

【取材後記】 今回の取材は、企業が異業種への参入をどういう経過で取り組まれたのかを要点にしました。

この取組みは今後、地域づくりや定住への可能性が大きいものとして、紹介させていただきます。